

令和7年度 江戸川区立鹿本中学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自律（自らを律し、主体的に活躍できる生徒） ・敬愛（お互いを敬い、協働できる生徒） ・探求（自ら学びに取り組める生徒） 				自指す学校像 自指す生徒像 自指す教師像	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎基本の定着を図る学校。社会に通用する規律を重んじる学校。 ・正しいあいさつが、あたりまえに交わされる生徒。他を尊重しながら行動できる生徒。 ・生徒の個性を伸長できる教師。自らの行動に責任をもてる教師。 				
前年度までの本校の現状	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器の校内研修を実施し、どの教科の授業でも活用することができた。 ・鹿本学園との交流を行うことができた。 ・朝の欠席連絡など「totoru」の活用を広げることができた。 ・年間2回のhyper-QUを実施して学級や学年経営に役立てることができた。 				課題	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上に向けた取組を充実させ、家庭学習の習慣化を図る。 ・不登校生徒の校内別室指導の体制づくり等、不登校対応の充実を図る。 ・読書科の探求的な学習の充実を図る。 ・体育着登校の実態を改善し、制服登校を増やしていく。 			

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」 自己（学校）評価(A~D)		「中間」 学校関係者評価(A~D)		「年度末」 自己（学校）評価（A~D）		「年度末」 学校関係者評価（A~D）	
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント
学力の向上	○学習の基礎となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対する学校の組織的な対応による取組の実施・充実	・学校と民間事業者による放課後補習教室の実施	・放課後補習教室への参加率80%以上	90%		A	・参加方法を多様化し、昨年度よりも登録率を向上させ、参加率も良い。	A	・学力の向上は重要である。今後も推進してほしい。				
		・ミライシードの「ドリルパーク」の活用	・ドリルパーク活用者が80%以上	60%		C	・今後のスタディウィークで周知し、活用者を増やしていきたい。	C	・ドリルパーク以外の学びも大切である。家庭学習の充実を図ってほしい。				
	○読書科の更なる充実	・1年次より探究的な学習を計画的に取り組み、3年次で成果物として発表	・3年次の成果物完成80%以上	55%		C	探求的な学習について学校としての具体的な取り組みを検討している。	C	・計画に従って、実施していって欲しい。				
体力向上	○個に応じた体力向上のための取り組みの実施・充実	・体育授業において単元ごとの運動に適した補助運動を毎時間実施	・補助運動の実施を100%	83%		B	・毎時間実施できているが、補助運動の内容について、単元ごとに工夫して実施できるように検討している。	B	・今後も継続してほしい。				
		・雨天時の扈休みは学年ごとローテーションで体育館を開放	・特別な事由がない限り100%実施	90%		A	・大きなトラブルもなく計画的に実施できている。	A	・今後も継続してほしい。				
実現性の社会性の推進	○ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実	・特別支援学級、難聴学級、特別支援教室、不登校巡回、SC、心理士、SSWとの連携	・毎月1回以上、特別支援委員会を実施	85%		B	・特別支援委員会を毎月2回開催し、個々の生徒への対応について情報交換や協議を行っている。	B	・きめ細かい生徒対応を期待している。				
	○エンカレッジルームの活用促進	・巡回指導以外にも合理的配慮の目的等で使用	・各学期1回以上、巡回指導以外の目的で使用	85%		B	・定期検査の合理的配慮について特別支援委員会で検討し、適切に実施している。	B	・今後も継続してほしい。				
	○交流、副籍交流及び共同学習の実施充実	・鹿本学園等との年間指導計画に基づいた交流及び共同学習の実施	・年間3回以上の実施	85%		B	・鹿本学園と9月に3年生がレクレーションボッチャで交流授業を実施した。	B	・充実した交流を図っていってほしい。				
不登校・いじめ対応の充実	○不登校別室指導の実施・充実	・不登校別室指導の体制づくりと充実	・昨年度、2学期より実施 ・利用生徒3名以上	80%		B	・現在5名の生徒が別室で学習している。担任との連携や運用について、特別支援委員会で検討中。	B	・積極的に活用できるようにしていってほしい。				
	○hyper-QUの活用	・hyper-QUテストの生徒の実態把握に基づいた指導の推進	・年に1回校内でhyper-QU研修会を実施	85%		B	・hyper-QUの結果をもとに各学年生徒の実態把握をして、共通理解を図った。	B	・今後も継続してほしい。				
	○教育相談の強化	・各学期でいじめに関するアンケートを実施するとともに、二者面談等を実施	・生徒80%以上がアンケートに「教師を実施するとともに、二者面談等を実施」と回答	78%		B	・1学期にいじめアンケートを実施。結果をもとに各学年で必要に応じて面談を実施した。学校評価アンケートは12月に実施予定。	B	・生徒との対話を大切にし、いじめ防止に努めていってほしい。				
学園域が社会実験に	○学校ホームページの充実等	・学校ホームページの更新	・週1回以上更新を行う	90%		A	・学校での出来事をこまめに更新し、充実に努めている。	A	・今後も継続してほしい。				
	○学校関係者評価の充実	・学校評議員会の実施 ・生徒、保護者、教員へのアンケート調査の実施	・各学期に1回実施 ・年間1回以上実施	90%		A	・計画的に実施できている。学校評価アンケートは12月に実施予定。	A	・今後も継続してほしい。				
	○校則などの見直しについての検討	・生徒会役員との意見交換の実施	・各学期に1回以上実施	70%		C	・1学期は生徒会役員との意見交換が実施できなかったので、より良い学校づくりにつなげていくために2学期以降実施していく。	B	・今後も継続してほしい。				
教育の特色ある開拓	○インクルーシブ教育の推進	・三つの学級（通常学級・特別支援学級・難聴学級）が一緒に行う行事の実施	・各学期に1回実施	90%		A	・1学期は運動会を実施。5組は1年生と一緒に学年組で取り組んだ。	A	・今後も継続してほしい。				
	○授業改善の推進、教員研修の実施	・教員の組織的な育成、研究授業の実施	・研究授業を全学級で年1回以上、全教員の半分以上が実施	85%		B	・1学期は3年生の各学級した。2学期は2年生の各学級で研究授業を実施予定。	B	・教員の研修充実に期待する。				
	○働き方改革の推進	・月1回の定時退勤日の設定	・全教職員の月残業時間80時間未満	80%		B	・残業時間が増加しないよう、今後も呼びかけを行っていく。	B	・教職員が健康を害さないようにしていってほしい。				